

**公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・コーディネーター養成カリキュラム
: 課程認定校における科目設置の基準**

基本カリキュラム	学習内容と設置科目例	科目設置の基準
科目1:レクリエーション支援の理念と方法(基本学習時間:51時間)		
学習項目1:レクリエーションの基礎理論 学習内容1:レクリエーションの基礎理論 学習内容2:レクリエーション支援論 学習内容3:レクリエーション事業論	<p>○「レクリエーションの基礎理論」「レクリエーション支援論」「レクリエーション事業論」、それぞれの学習内容を組み込むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた事例や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。</p> <p>○特に「レクリエーション」を冠した科目を設置できない場合、各学習内容に係る時間配分等について一般養成に準ずる設定を設けているので注意すること。</p> <p>○学習した内容が実技科目や現場実習につながるよう配慮する。</p> <p>○「通常コース」「教育コース」それぞれに対応した学習内容で授業を構成することもできる。</p> <p>◎設置科目例 <レクリエーションを冠した科目例> ●レクリエーション概論 ●スポーツ・レクリエーション論 <レクリエーションを含まない科目例> ●生涯スポーツ演習 ●レジャー論 ●体育理論 等</p>	<p>①「レクリエーション」を冠した理論もしくは演習科目を、1科目以上2単位以上で設置すること。</p> <p>②「レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存の科目を学習内容により読み替えることができる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、15時間を下回らないこと。</p> <p>⑤実習科目に先立って設定されていることが望ましい。</p>
学習項目2:レクリエーション活動の展開方法 学習内容1:コミュニケーション・ワーク 学習内容2:目的にあわせたレクリエーション・ワーク 学習内容3:対象にあわせたレクリエーション・ワーク 学習内容4:演習1 学習内容5:演習2	<p>○「コミュニケーション・ワーク」「目的にあわせたレクリエーション・ワーク」「対象にあわせたレクリエーション・ワーク」「演習1」「演習2」、それぞれの学習内容を組むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた事例や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。</p> <p>○特に「レクリエーション」を冠した科目を設置できない場合、各学習内容に係る時間配分等について一般養成に準ずる設定を設けているので注意すること。</p> <p>○実技の体験にとどまらず、考え方や方法など実技に関わる理論とあわせて学習できるよう配慮する。</p> <p>○実技科目に設置された「指導実習」や「演習」では、指導案の作成も含めて実施されたい。</p> <p>○「通常コース」「教育コース」それぞれに対応した学習内容で授業を構成することもできる。</p> <p>◎設置科目例 <レクリエーションを冠した科目例> ●レクリエーション指導法 ●スポーツ・レクリエーション実技 <レクリエーションを含まない科目例> ●体育実技 ●生涯スポーツ演習 ●ニュースポーツ 等</p>	<p>①実技科目もしくは演習科目として2単位以上で設置すること。科目数は問わないが、「レクリエーション」を冠した科目を1科目以上1単位以上含めること。</p> <p>②「レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存の科目を学習内容により読み替えることができる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、36時間を下回らないこと。</p> <p>⑤実習科目に先立って設定されていることが望ましい。</p>
科目2:活動領域および支援対象の理解(基本学習時間:35時間)		
学習項目1:活動領域の理解 学習内容1:社会全体と活動領域 学習内容2:活動領域の特徴(基本的な理解)	<p>○「通常コース」はスポーツ領域の専門科目を、「教育コース」は学校教育・社会教育領域の専門科目から、それぞれに対応する科目を設置すること。但し、スポーツ領域の専門科目と教育領域の専門科目が重複する場合にはこの限りではない。</p> <p>○養成課程主任教員は、科目を担当する教員に対してレクリエーション・コーディネーター養成課程の指定科目であることを伝え、学習内容等の調整を図ることが望ましい</p> <p>○学生が将来レクリエーション・コーディネーターとして活動する領域や支援対象者について、基本的な理解が出来るよう配慮すること。</p> <p>◎設置科目例 <通常コース> ●学習内容1:スポーツ社会学 ●学習内容1:スポーツ経営学、スポーツ行政学 <教育コース> ※小学校教諭の課程を例に(その他、中高体育教諭、幼稚園教諭、社会教育主事等も考えられる) ●学習内容1:学校教育職入門、教育原論 ●学習内容2:教育行政学、教育社会学</p>	<p>①3科目以上3単位以上で設置する。</p> <p>②各学習内容に1科目以上の科目を該当させる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いている科目であること。</p> <p>④既存の科目を読み替えることができる</p>
学習項目2:支援対象の理解 学習内容1:人や集団のメカニズムと支援対象 学習内容2:支援対象の身体面の特徴	<p>◎設置科目例 <通常コース> ●学習内容1:スポーツ指導論 ●学習内容2:スポーツ心理学、スポーツ医学、スポーツ生理学 <教育コース> ※小学校教諭の課程を例に(その他、中高体育教諭、幼稚園教諭、社会教育主事等も考えられる) ●学習内容1:特別活動研究、教育相談研究、生徒指導・進路指導研究 ●学習内容2:教育心理、発達心理</p>	<p>①2科目以上2単位以上で設置する。</p> <p>②各学習内容に1科目以上の科目を該当させる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いている科目であること。</p> <p>④既存の科目を読み替えることができる</p>

科目3:レクリエーション・コーディネート技術(基本学習時間:科目4と合わせて84時間)

<p>学習項目1:事業でのレクリエーション・インストラクション技術の活用 学習内容1:良好な集団形成のための基礎的な技術や理論 学習内容2:レクリエーション活動を用いた集団形成の実践的理解</p> <p>学習項目2:事業やプログラムの意図に応じたレク活動のアレンジ・創作 学習内容1:様々なレクリエーション活動の特徴と選択の視点の理解 学習内容2:意図に応じた活動の工夫(アレンジ)や創作の実践</p> <p>学習項目3:事業の企画と運営 学習内容1:事業の企画・運営の基礎知識 学習内容2:レクリエーション事業の企画・運営</p>	<p>○「通常コース」「教育コース」それぞれに対応する科目を設置することが望ましい</p> <p>○コース毎に科目を設置することができない場合、演習グループや演習テーマなどでコースを分けるなど、学生が活動する場面を具体的に想定できるよう配慮すること。</p> <p>○養成課程主任教員は、科目を担当する教員に対してレクリエーション・コーディネーター養成の指定科目であることと活動イメージを伝え、それぞれの科目における学習内容等の調整を図るよう配慮すること。</p> <p>◎設置科目例 <通常コース> ●レクリエーション支援論 ●レクリエーション実践 ●イベントプランニング演習 ●スポーツマネジメント論 ●ボランティアコーディネート <教育コース>※小学校教諭の課程を例に(その他、中高体育教諭、幼稚園教諭、社会教育主事等も考えられる ●学校レクリエーション論 ●学級経営論 ●学校教育課程論 ●体育科教育法 ●教育教科専門体育</p>	<p>①科目3と科目4を合わせた科目設置の基準とする</p> <p>②理論科目を1科目以上含む2科目以上5単位以上で設置する。</p> <p>③科目3については「レクリエーション」を冠した科目をおくこと。但し「レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、学習内容を実現できる既存の科目を読み替えることができる。</p> <p>④教育コースの科目3については、当面養成課程主任教員またはレクリエーション指導者資格を保有する教員が担当する科目を充てることとする。</p> <p>⑤科目4については、原則としてレクリエーション・コーディネートに関する専門の科目を設置すること。</p> <p>⑥学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>⑦実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、84時間を下回らないこと。</p>
<p>科目4:レクリエーション・コーディネーター演習</p>	<p>○科目1～3の学習成果を用いて、レクリエーション・コーディネーターとして活動する領域・対象を想定した事業の企画や運営、レクリエーション活動を用いた集団形成の演習を行う。</p>	

科目5:現場実習(基本学習時間:30時間)

	<p>○「通常コース」「教育コース」それぞれに対応する科目を設置すること</p> <p>○科目1～4の学習成果を用いて、実習する実際の現場における支援対象や環境を理解し、実習担当者の指導・助言のもと、支援プログラムの企画・運営・評価を体験する。</p> <p>◎設置科目例 <通常コース> ●社会体育施設実習 ●スポーツマネジメント実習 <教育コース> ●教育実習 ●社会教育実習 ●教育職インターンシップ</p>	<p>①実習科目として1科目以上1単位以上で設置する。</p> <p>②専門の実習科目として設置することが望ましいが、既存の実習科目を読み替えることもできる。</p> <p>③実学習時間(60分を1時間とする時間)で30時間を下回らないこと。</p> <p>④学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>⑤科目1～4のまとめ(総合演習)的な科目として設定されていることが望ましい。</p> <p>⑥その他、都道府県や市区町村のレクリエーション協会との連携を図り、事業参加等の機会を確保することが望ましい。</p>
--	---	---